

「tovo™」について



おかげさまで、10年を目標にした tovoの活動は、2019年6月で8年！ 皆さん、ありがとう！

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2019年6月現在**

までの総寄付金は「¥7,648,484」となりました。

10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目標にしています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

チャリティー缶バッジなどのお取扱店 (2019.7 現在)

青森県内

- ▶青森市 A-Factory / アトリエカヌー / もぐらや / oppen plaza sora / oppen plaza sena / CAFE 0371 / カフェ・デ・ジターヌ (古川店) / boulangerie TATSUYA 青森店 / 古民家カフェ apricot
- ▶弘前市 ホームワークス / 津軽工務社 / バンブーフォレスト / 中国料理豪華楼 / Garret
- ▶五所川原市 タイムスライズ
- ▶黒石市 木田理容所

青森県外

- ▶東京都 (杉並区) 大怪店
- ▶千葉県野田市 茶寮たるふじ
- ▶岡山県岡山市 レストラン Mint

LINE@
はじめました。



おかげさまで8年！いつもご支援ありがとうございます！新商品続々登場！



※写真は全てサンプルです。実際の商品と異なる場合があります。

おかげさまでtovoの活動も6月で8年となりました。いつもより少し遅くなってしまいましたが、7月末より、毎年恒例の藍染商品の他、続々新しい商品がリリースされますので、お楽しみに！

フリーペーパー「tovo plus™」



「tovo plus」は、tovoの発行する月刊のフリーペーパーです。月に1度、青森県内に住むご家族のお話を伺い、311当時の様子、それ以降の考え方や生活の変化を時間の経過と共に記し続けています。100号、100ヶ月、100家族が目標です。

おかげさまで、残り16号、16ヶ月、16家族。毎月のご支援に深く感謝申し上げます。

※1年間（12号）の定期購読（1,800円）を承ります。

フリーペーパー「tovo plus™」配布ご協力店

青森県内

- ▶青森市 A-Factory / アピオあおり / 肴ダイニング心 / ふたば写真館 / もぐらや / oppen plaza sora / oppen plaza sena / ヒーリングサロン LULU / アトリエ CANOE / カフェ・デ・ジターヌ / SUBLIME / miageru. / cafe 0371 / OOLJEE / レストラン Tera / boulangerie TATSUYA 青森店 / 古民家カフェ apricot / Okome Cafe & Bar 米 b
- ▶弘前市 まちなか情報センター / 弦や / 弘前市役所 / chicori / バンブーフォレスト / 太平洋画房 / Garret
- ▶黒石市 木田理容所 / おかしのオクムラ / 津軽黒石 こみせ駅
- ▶五所川原市 むすぶカフェ えいぶりる
- ▶つがる市 HMV イオンモールつがる柏
- ▶八戸市 Saule Branche Shinchō
- ▶平内町 BASE CAMP ▶野辺地町 自遊木民族珈琲
- ▶東北町 TBT 英会話教室

青森県外

- ▶岩手県 YOSHIDA LIFE
- ▶山形県 熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんめこ
- ▶福島県 田村市テレワークセンター テラス石森
- ▶東京都渋谷区 Only Free Paper / RE:BIRTH STUDIO
- ▶東京都杉並区 大怪店
- ▶千葉県野田市 茶寮たるふじ
- ▶大阪府大阪市 はっち
- ▶岡山県岡山市 レストラン Mint
- ▶広島県福山市 繁々・tunatuna-

募集中

10年を目標にしたtovoの活動も早いもので、解散まで残り2年を切りました。残りの期間の中で、たま〜に一緒に活動してくれる方をいつでも募集中です。お気軽にご連絡ください。

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

- tovo2011.com
- shop.shop.tovo2011.com
- @tovo2011
- @tovo2011
- @tovo2011
- @tovo2011

【発行】代表：小山田 和正 (email: info@tovo2011.com)
住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol. 21 (Jul. 2019)

ALWAYS
WITH YOU



【アトリエカヌー竹内さんと作る トヴォの天然藍染2019年版】

10年を目標にしたtovoの活動も、おかげさまで残すところ2年となりました。5年を過ぎた頃からこのプロジェクトを美しく終わらせる為のプロジェクトを2つ始めました。1つは、あしなが育英会ファッションデザイナーの育成。そして、もう1つがいくつかの施設に僕たちがやってきた藍染めのプロジェクトを承継することです。前回の特定非営利活動法人ほほえみの会の藤林秀さんのレポートに続き、今回も現在、藍染のプロジェクトと一緒に進めている「社会福祉法人あーど」の熊谷皓希さんのレポートです。



今年が 本当の 初挑戦

熊谷 皓希

社会福祉法人 あーど
はたらび一た 主任

① 藍染を知る前

実際に藍を育てて・調べる前の藍染のイメージは、「お土産やさんとかでたまに見る青い染料」とか「確か昔のジーパンを染めるのに使われていたもの」くらいのものでした。

正直に言いますと、法人として藍染を使った製品や雑貨を作るために藍を育てると決まったときに「藍染が難しくなければいいな」と思いました。笑

② 藍の栽培中

私たちが藍染をするために、まず初めに取り組んだのは藍を育てることでした。アトリエCANOEの竹内さんとtovoの小山田さんが苗を持ってきてくださったとき私はいなかったのですが、初めて藍を見たときは土に埋まっている状態でした。土に埋まっている

小さな藍を見たとき、これをもとに藍染ができるんだという想像はできませんでした。

藍の肥料には煮干しがいいということをお聞きして、収穫をするまで畑に寄って煮干しをまきました。みるみるうちに藍が立派に育って藍の苗を頂いてから数ヶ月で収穫することになりました。藍の収穫は思ったよりも重労働で、茎から葉をすべてとらないといけません。収穫量も結構な量だったので、作業としては大変だったのですが、藍の葉を指でこすってみると綺麗な青い色が出て、「これが藍染になるんだね」

③ アトリエCANOEを訪れて

とうとう10月にアトリエCANOEさんに伺うことになり、この日は藍の葉を発酵させて作る「スクモ作り」と藍染の染液を見せていただきました。初めに藍の発酵を見せていただいて驚いたのはその匂いと熱さ。藍の枯葉は発酵によってアンモニア臭と発酵熱が生まれるらしく、確かにツンとくる匂いがするのですが、自然な匂いだからか不思議と嫌悪感を感じる匂いではありませんでした。発酵熱は想像以上に高く、「これはヒーターとかであつためているんですか？」と思わず聞いてしまったほどでした。発酵後にできるスクモも見せていただいたのですが、スクモはゴツゴツとした正露丸のような見た目でした。藍の見た目の変わり様

④ これから

私たちは昨年度を通して、藍の苗を育てる、葉の収穫、乾燥、タネの収穫という工程に挑戦しましたが、今年度は種から藍を育てていて、収穫をした後は「スクモ作り」と染めてみるまで挑戦する予定です。うまくスクモが作れれば、竹内さんがおっしゃっていた「発酵建ては、生き物だから日によって染まり方が変わる。それが難しい

とそのとき初めて同僚や利用者さんと話した記憶があります。

藍を育てている間、自分たちでネットや本を使って藍染のことを調べて見ると、藍が藍染の染料として使えるようになるまでに、藍を収穫して、乾燥させて、発酵させるらしい。その発酵させる過程は数ヶ月に及ぶらしい。ということがわかりました。動画や画像を見るとなんとなくイメージはついていたのですが、やはり実感は湧きませんでした。

と、匂い、発酵熱はいかににも植物から藍染の染料に変わっていているんだという感じがしてその面白さに感動しました。

実際に藍染の染液に、腕をいれてガーゼの藍染もさせていただきました。染めたものが藍色になるので染液も勿論青っぽい色だろうと思っていたのですが、予想に反して染液は茶色がかった色でした。電気毛布で包んでいるので、水温は生暖かくて中はトロツとした感じでした。ガーゼを染液から出すと初めは染液と同じ茶色ですが、空気に触れていくうちに藍染の色になっていくのもまた不思議で、「これが藍染か」と実感できた瞬間でした。

し、面白い」という言葉を体感することができかなと思っています。

今年度は種から植物になり、その植物が発酵した時の匂いや熱、染液変わる不思議さやそれを使って染める難しさ、を利用者さんや同僚と分かち合いながら楽しんで育てていけたらいいなと思っています。